

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2020年4月27日 提出

1. 研究課題名	
元禄歌舞伎のデジタル再現のための基礎的研究 (英文課題名: Fundamental research for digital reproduction of Kabuki in Genroku era)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
岩井 眞實	名城大学・教授
3. 研究分担者 (合計: 3名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鳥越 文蔵	早稲田大学・名誉教授
佐藤 恵里	高知県立大学・名誉教授
東 晴美	群馬県立女子大学・講師

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>歌舞伎は、京都が発祥の地である。その歴史を辿ると、元禄歌舞伎時代があり、世界の演劇全体に比べても、最も洗練された演劇が京都を中心として展開していたことに気づかされる。しかし、元禄歌舞伎には、映像はもちろんのこと、台本もほとんど存在しない。ただし周辺資料は数多く残されており、これらを有機的につなぎ合わせれば、当時の演劇の実態を再構築することが可能である。従来、それらの資料は単なる資料群として個別に扱われることがほとんどであったが、デジタル・アーカイブの上に構築する有機的な資料群は、いわば三次元の世界を再現することが可能である。</p> <p>対象となる資料は、絵入狂言本、役者評判記、あるいは歌舞伎番付である。なかでも、絵入狂言本(歌舞伎の絵入筋書き本・台本に近いものもある)は舞台を表現した絵画とともに、筋書、出演者の配役などが詳細に記載される一級資料である。</p> <p>2018年度においては、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了した。2019年度はこれを承けて、網羅的なデジタル・アーカイブ型研究を推し進め、そこに含まれる絵画表現とテキスト表現から立体的に情報を抽出して、元禄期の演劇舞台では何が行われていたかを可視化する。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2018年度の成果として、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了した。</p> <p>2019年度は2018年度の成果を承けて、各所蔵機関の書誌調査を進めた(「6-1. 研究成果の詳細」参照)。</p> <p>さらに、これをふまえた上で ARC「絵入狂言本データベース」にその画像をアップロードする作業を行った。同データベースは、国文学研究資料館「新日本古典籍総合データベース」、国立国会図書館「デジタルコレク</p>

ション」、東京大学霞亭文庫の画像データベース、および東京藝術大学附属図書館のデータベース(現在アップデート中)等、公開された機関の画像データベースにリンクが張られている。また、画像をネット上に公開していない機関についても、内部閲覧用に画像を閲覧できる仕組みにしている。これまで異なる機関に所蔵される同一題名の狂言本を並べて対比することは困難であったが、このデータベースによって PC やタブレット上で並べて閲覧することができるようになった。

また、新出・未見の絵入狂言本についても閲覧と書誌調査を行うことができた。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

特になし

(2) 論文

・『『傾城枕軍談』と『義経千本桜』』、単著、2020年3月、名城大学外国語学部・『Journal of Faculty of Foreign Studies, Meijo University』第3号、その他著者名、171-180頁、査読有

(3) 研究発表等

特になし

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

特になし

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

特になし

(6) 受賞学術賞

特になし

(7) 科学研究費助成事業

・「壁を壊す—国際的な日本演劇研究のための拠点の構築」、基盤研究◎、2017年4月—2019年3月、役割(代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

特になし

(9) その他